



もうすぐ立春（2月4日）です。寒い日が続きますが、暦の上では春です。今は、立春の前日を節分といいますが、本来は季節を分ける日のことを節分といっていました。立春、立夏、立秋、立冬のそれぞれ前日を節分といい、年に4回ありました。季節のひとめぐりを一年と考えると、立春は新年の一日目、節分は旧年最後の日となり大晦日となります。節分では「祓い清め」の行事として室町時代から豆まきが行われるようになり、江戸時代には、庶民に定着したそうです。

『季節の行事と日本のしきたり事典三』新谷尚紀/著 マイナビ出版 参照

豆まきをすると、あと始末や掃除が大変と考えてしまいます。今年は思いっきり「鬼は～外～」と盛大に豆をまき、邪気を払いのけたいです。

☆☆図書委員がおすすめする本〴〵特集☆☆



書名『100回目の空の下、君とあの海で』 著者名 櫻井千姫 出版社 スターツ出版

泣ける度★★★★★ 為になる度★★★★★ 恐怖度★★★ 悲しくなる度（切なさ度）★★★★★

あらすじ：海の近くの小学校に通う6年生の主人公福田悠海と中園紬。この二人は親友同士。家族にも似た同級生たちとともに、まだ見ぬ未来への希望に宗胸をふくらませていた。が、卒業間近の3月半ば大地震が起きる。津波が辺り一帯をのみこみ、クラス内ではその日風邪で欠席した紬だけが犠牲になってしまう。悲しみに暮れる悠海だったが、あるとき突然うさぎの人形が悠海に話しかけてきた、「紬だよ」と…。奇跡が繋ぐ友情、命の尊さと儚さに誰もが涙します。

おすすめコメント：私はこの本を読んで自分の考えを持ったり学ぶことが多かった。災害を体験した人にしかわからないし、簡単に立ち直ることもできないと思うけれど、いつまでも前を向かなかつたら人は成長できないと思った。生きているかぎり災害を体験することもあるだろう。この本は命の尊さ、大切さを改めて感じさせてくれる本だった。また、これからの人生色々なことがあると思うけれど、嫌なことがあってもいつまでも引きずらずに前を向いて歩いていける人間になりたいと思った。この本を読むと色々な考えや感情を持つと思います。これからの生活に影響を与える本になると思うので、ぜひ読んでみてください。

（1C 下 由依）

書名『私は私のままで生きることにした』 著者名 キム・スヒョン 出版社 ワニブックス

為になる度：★★★★★ 癒やされ度：★★★★★ 心が軽くなる度：★★★★★

あらすじ：私たちはみんなヒーローにあること、特別な何者かになることなどを夢見ていた。だけど今では世界どころか自分を救うことに必死な大人になってしまった。本書には今を生きる普通人へのいたわりと応援をつめこんでいる。

おすすめコメント：この本は韓国で大ヒットした本を訳して日本で出された本です。B.T.Sのジョンクさんが愛読した本です。スラスラ読むことができ、読むと心が軽くなります。内容は奥が深くひとつひとつに力があって、とても読みがいがある本です。ぜひ読んでみてください。

（2A 西 凧沙）

書名『ブルーロック』 著者名 金城宗幸 出版社 講談社

おもしろ度：★★★★★



あらすじ：世界一のストライカーになるために「ブルーロック（青い監獄）」に閉じ込められて、世界中の人たちと戦い、世界一になるという話です。

おすすめコメント：サッカーのマンガが好きな人なら絶対おもしろいと思います。

（2B 西川 知輝）

♪新しい本がいっぱい…♪

『つながり続けるこども食堂』

湯浅誠（著）

世論調査によれば、こども食堂の認知度は84.4%に達するが利用したことがある人は、少ない。昔の子ども会のような雰囲気のある場所、子どもからその親たち、ひとり暮らしの高齢者を含む地域の大人たちが集まる場である。【369.4】



『子ども食堂をつくらう！』

～人がつながる地域の居場所づくり～』

NPO 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク（編著）

自分の地域で子ども食堂をはじめたい方に向けて、立ち上げの準備から実際の運営方法まで Q&A で解説。【369.4】

『発達障害&グレーゾーン子育てから生まれた
伝わる！声かけ変換』

大場美鈴（著） 【378】

『人とのかかわりで育つ』

言語・コミュニケーションへのアプローチ

家庭・園・学校との連携』

大伴潔/綿野香/森岡典子（編著） 【378.2】

『英語で味わえるようになる名言366』

福田尚弘（著） 【837.5】

『岩波講座 世界歴史03』

ローマ帝国と西アジア前三～七世紀
荒川正晴他（編集委員） 【209】

『岩波講座世界歴史06』

中華世界の再編と
ユーラシア東部四～八世紀』
荒川正晴他（著） 【209】

『追ってくる怪談 緑の本』『終わらない怪談 赤い本』『封じられた怪談 紫の本』

『時をこえた怪談 金の本』『ついてくる怪談 黒い本』『待っている怪談 白い本』

『学校の怪談 黄色い本』『海をこえた怪談 銀の本』『色のない怪談 怖い本』

『番外編 忘れていた怪談 闇の本』 『番外編 つながっていく怪談 呪う本』

緑川聖司（作）/竹岡美穂（絵）【913.6】



『やさしく読めるビジュアル伝記』

ナイチンゲール』

高橋うらら（文）/朝日川日和（絵）

和住佳子/山本利江（監修） 【289.3】



『統計学者としてのナイチンゲール』

多尾清子（著）

ナイチンゲールはクリミア戦争（1854～1856）でクリミアの白衣の天使として記憶されています。看護界においては近代看護の創始者であり近代看護の発展に大きな影響を与えた人です。ナイチンゲールは若い頃から特に数学と統計学に深い興味をもって勉強していました。クリミアの陸軍病院の実態と教訓を統計的手法によって分析しパンフレットや報告書にまとめた。衛生改革を社会的に実現発展させていく上で統計的方法の効果を深く認識していました。【498.019】

『普及版 看護覚え書き』

フロレンス・ナイチンゲール（著）

小林章夫・竹内喜（訳） 【492.9】

『ミステリと言う勿れ⑩』

田村由美（著） 【726.1】

『朝日キーワード 2023』

朝日新聞社出版（編）

【813.7】

『二月の勝者⑭』

高瀬志帆（著） 【726.1】

『新装版 のだめカンタービレ④』

二ノ宮和子（著） 【726.1】



『なるには Book s 6 3』

社会保険労務士になるには』

池田直子（著） 【364.3】